

高校生と共作シリーズその①

# 宙に消える

— 旋回するアタックギフト —

作・中嶋悠紀子

【登場人物】(男1・女4 ほか)

ひとみ 長女

ふたえ 次女

みつよ 三女

さつちゃん ひとみの親友を名乗る女

コクボ さつちゃんに連れて来られた女

お父さん 三姉妹の父

お母さん 三姉妹の母

さつちゃんのお父さん

さつちゃんのお母さん

主人公

魔法使い

武闘家

男

※お父さんはコクボ、お母さんはさつちゃんが演じる。

※主人公、魔法使い、武闘家、さつちゃんのお父さん、さつちゃんのお母さんは出演者を募っても構いませんし、入れ替わりで誰かが二役を演じても構いません。人が演じなくてもいいです。演出で見せ方を工夫してください。

【舞台】

三姉妹が暮らす木造アパートの一室。

庭には壊れかけの洗濯機が置かれてある。

【1】

街の外れにある、まるで時代から切り離されてしまったかのような木造アパートの一室に、姉妹たちは暮らしている。庭には共用の洗濯機と、錆びた物干し竿、いつ誰から貰ったのかも分からない洗剤のアタックが置かれてあるが、彼女たち以外がそれらを使っている様子はない。

轟音。

上空を飛行機が通過する音。

―かと思いきや、音を立てているのは壊れかけの洗濯機。

三女のみつよが不機嫌そうに立っている。

回転がいつになっても止まらないのだ。

苛立ちを爪先に集め、側面を大きく一蹴りする。

轟音はシュルシュルシュルと擦れる音に変化し、やがて止まる。

みつよは蓋を開けて洗った服を取り出す。

みつよ Tシャツが一枚、二枚、三枚…。ブラウスが一枚、二枚…。靴下が…

あれ…？

洗濯機は無言を貫いている。

みつよ またなくなった…。

扉の向こうから、長女ひとみの声。

みつよ もう！

みつよは諦めて部屋に戻ろうとする。ふと空を見上げると、赤い星がきらりと光ったように見える。

みつよ 今何か光った…？

ひとみの声 ごーはーんーよー。

みつよ …なんだ飛行機か。

【2】

姉妹たちの暮らす部屋。

散らばったゲームソフトに、脱ぎっぱなしの服。

いつ食べたのか分からないスナック菓子のごみ。

それらの下敷きになっている布団。

いわゆる汚部屋である。

中央には小さな円卓。

その上にはカセットコンロと、アツアツの鍋が

かろうじて居場所を確保している。

緊迫した間

ふたえ …そろそろかな。

みつよ …そろそろでしょう。

ふたえ …どれくらい経った？

ひとみ …六時間三十五分。

ひとみの声 ごはんよー。

みつよ そんなに!?

ふたえ 芯まで味も染み渡った。

みつよ 姉さん。

ひとみ うむ、では……。手を合わせましょう!

ふたえ・みつよ 合わせました!

ひとみ いただきます。

ふたえ・みつよ いただきます!

ひとみ、鍋の蓋をあける。

アツアツの鍋から覗いて見えるのは、どろどろに溶けた白い物体。

三人は黙ってそれを小皿に取って食べる。

みつよ まっず。

ふたえ まじい。

みつよ 何このどろどろの白い物体は。

ひとみ にゆうめんです。

ふたえ・みつよ にゆう・めん!?

みつよ にゆうめんを六時間三十五分!?

ふたえ 私今日鍋だって聞いたんだけど。

ひとみ 鍋ですー。

みつよ ひとみ姉さん、普通鍋と言えはある程度相場が決まっているものな

のよ。豚肉、白菜、にんじん、しいたけ…。

ふたえ 春菊、糸こんに、お豆腐、ネギ、そして…。

ふたえ・みつよ マロニー!

ひとみ 似たようなもんじゃない、マロニーちゃんもにゆうめんちゃんも。

ふたえ ノンノンノンノンノンノンノン!

みつよ マロニーちゃんはデンプン、にゆうめんちゃんは小麦!似て非なる

ものなり。

ひとみ ぴえーん。(泣く)

ふたえ 「ぴえーん」じゃない!何故にゆうめんを六時間も煮込んだ!

みつよ 鍋と偽った!

ふたえ この罪は重い!

ひとみ ぴえーん。(泣く)

みつよ 「ぴえーん」じゃない!答えよ!

ひとみ …だつて、ないんだもん。

ふたえ・みつよ え?

ひとみ ないんだもん、お金。

ふたえ・みつよ な!

ひとみ 給料日まであと十日。だのに!財布の中身は…。

財布の中身をチャリーンと出す。

ふたえ・みつよ さんじゅうごえん…。

ひとみ 分かるでしょ!一束の麺を煮込んで煮込んでかさを増やさないと、

私たちは生きていけないの。

ふたえ・みつよ そ、そんな…。

ひとみ 死活問題なのよ。分かつて…。

ふたえ 生きて行かなければ。

みつよ 生きて行かなければねえ。

間

ふたえ はいっ。茶番茶番。

みつよ 「ドラマチック・スパイス 給料日まで三十五円編」

ひとみ もう何回やったかしらねえ。  
ふたえ 食べ飽きたにゆうめんの味に少しでも刺激を。  
みつよ いい加減マンネリだよ。どこまでいつてもにゆうめんはにゆうめん。

三人、残りのにゆうめんを口に流し込む。

ふたえ はあーつらい、はあーつらい。…ゲームしよ。

ひとみ オンラインはだめよ。

ふたえ どうせネット繋がってないしー。

ひとみ オンラインゲームじゃなければみつよちゃんがいくらでも買ってくれるから。

みつよ はい！？

ひとえ (窓から星空を見て) 火星に暮らすお父様、お母様、どうかみつよちゃんの時給がアップしますように。みつよちゃんがもつとシフトに入れてもらえますように。みつよちゃんもつとたくさんのお給料を家に入れてくれますように。

みつよ おいおいおい。

ひとみ soしていつか鴨鍋や猪鍋、カニ鍋がお腹いっぱい食べられますように。

みつよ それおかしくない？貧乏は私のせいだって言うの？

ひとみ みつよちゃんが大学に行くってきかないから。

みつよ 私特待生、学費ゼロ、奨学金まで貰ってるよ。姉さんたちに何ひとつ迷惑掛けてない。

ひとえ 学校がなければもつと働けるじゃない？

みつよ 働くべきは姉さん達でしょうが！二人がちゃんと仕事さえすればこんなドロドロなもの毎日食べずに済むし、ドラマチックスペースシリーズだってやる必要なくなるのよ。(ふたえに) ちよつとねえ聞いてる！？(ゲーム機のコードを抜き、窓を閉める)

ふたえ 何すんだよ！

みつよ 働け！

ひとみ ぴえーん。

みつよ 「ぴえーん」じゃない！祈る、前に、働け！

ふたえ 働く気持ちはあるんだよ。ただ仕事がないだけで。

みつよ この間決まったピザ屋は？

ふたえ ああ、あれやめた。

みつよ やめた？

ふたえ 私バイク乗れないじゃん。

みつよ 厨房って言ってたじゃない。

ふたえ うん、でも食材の搬入とか台車使ったりするじゃん？あれも何かムリって言うかー。

みつよ 台車は乗り物じゃない！

ふたえ いや、分かっているんだけど、なんか気分悪くなるって言うかー。気分良くなるまでコレで気を紛らわせるしかないって言うかー。うん。

ひとみ ひとみ姉さん。

みつよ 私は…お姉ちゃんだから。

ひとみ は？だから何。年上だから一番偉いとも言いたいの？

みつよ そうじゃなくて。

ひとみ お姉ちゃんだからこそ働きなさいよ。三十越えてニートとかありえない。

ふたえ そう怒るなよ。

みつよ 三人働けばもつと豊かな暮らしが出来るでしょう。

ひとみ 豊かな暮らし？みつよちゃん、豊かな暮らしって、なあに？

みつよ 普通のものが、お腹いっぱい食べられるってことよ。

ひとみ 今の生活じゃ幸せになれないって言うの。

みつよ そりやそうでしよう。

ひとみ みつよちゃんそれ違う、間違ってる。いや、間違っていないこともないけど、足りてない。私たちの認識とは違う。

みつよ 何が。

ひとみ ふたえちゃん、教えてあげて。

ふたえ 家族が揃ってることだよ。

みつよ え？

ふたえ 父さん、母さん、姉ちゃん、私、みつよ。五人が揃って仲良く暮らせるということだ。

みつよ 家族五人？

ふたえ 三人じゃないぞ。五人な。

ひとみ だからここで資産を持つということは無意味なのよ。

ふたえ 父さんと母さんが迎えに来たら、あっち行くんだから。

みつよ あっち…。

みつよ、窓から空を見上げる。

ひとみ ここを捨てる時に未練が残らないように。私たちは最低限の暮らしをしていればいいの。

ふたえ 三人だけで幸せになると、父さんや母さんも締めだされたような気持ちになるかもしれないしな。

ひとみ (空を見て) あっ。

ふたえ 何か見えた？

ひとみ あの赤い星。

ふたえ お父さん！お母さん！

みつよ 飛行機じゃないの？

ひとみ 今年は火星が大接近する年だから、もしかして…。

ふたえ もしかして！

みつよ …なんでこんなに前向きでいられるのだろうか…。

星空を見て盛り上がるひとみとふたえ。

みつよ イライラする…お腹が空いてるからか…。

洗濯機が勝手に回り始めたようだ。

みつよ もう！

声に反応するかのように、音は大きくなる。

みつよ 家族五人で火星暮らしとか、実感無さすぎだつて！

と、外に向かってにぶつけてみるが、当然聞こえない。みつよは布団に潜る。二人の姉は特に関心が無い様子。洗濯機はしばらく気まぐれな旋回を続けるが、やがてシュルシュルと疲れた音を立てて、やがて止まる。

部屋をノックする音。

過去にこの部屋を訪れた者は誰もいない。

みつよ 誰？

ふたえ NHKなら見てないからな！このテレビ、ゲームしか繋がらないし。出ちゃ駄目よ。

再び部屋をノックする音。

みつよ　なんか、いい匂いしない？

ふたえ　えっ？（扉に近づく）

扉の隙間から、猪鍋のいい匂いが入り込んでくる。

ふたえ　鍋だ！本物の！

みつよ　これ、猪よ！

ふたえ　うっひよー！

ひとみ　だめよ！

ふたえ　ムリ！

ひとみ　だめ！

ふたえ　いただきまーす！

みつよ　ずるい私も！

ひとみ　こらっ！

ふたえ・みつよ、扉を開ける。

さつちゃんが立っている。

さつちゃん　こんにちは。

ふたえ　誰？

さつちゃん　久しぶりね、ひとみちゃん。

ひとみ　え？

さつちゃん　私よ、さつちゃん。

風の音。

ひとみ　さつちゃん？

さつちゃん　ほらっ。（バナナの皮を剥くジエスチャー）

ひとみ　さつちゃん！？

さつちゃん　そう！

ふたえ　誰？

ひとみ　幼馴染のさつちゃんよ。ほらっ。（剥いたバナナを食べるジエスチャー）

↓

ふたえ　あの、バナナが大好きな、あのさつちゃん？

ひとみ　そう！

さつちゃん　ふたえちゃんも、久しぶりね。

ふたえ　さつちゃん！

ひとみ、ふたえは「やあ！」とか「うわあ！」など言いながら

再会を喜び合う。

みつよ　誰…？

ひとみ・ふたえ・さつちゃん　ほらっ。（バナナの皮を剥いて食べるジエスチャー）

↓

みつよ　えっ誰？

ひとみ　あ、あなた知らないわ。

みつよ　うおーい！

ひとみ　みつよちゃんは赤ちゃんだったもの。（さつちゃんに）さ、さ、あが

って。

さつちゃん　ありがとう。

ひとみ　ちよっと散らかってるけど…。

さつちゃん　（何かを踏んで）あ痛っ！

ひとみ ああ、ごめんなさい。適当にのけて。  
さつちゃん ええ…。

さつちゃんの後ろから、黒いスーツにサングラスを掛けた女、コクボがアツアツの猪鍋を持って入って来る。

ふたえ ふおおこの匂い。

みつよ 猪肉、白菜、にんじん、しいたけ…。

ふたえ 春菊、糸こん、お豆腐、ネギ、そして…。

みつよ・ふたえ マロニー！

ふたえ ふおおマロニーちゃん！

みつよ 初めまして！初めまして猪ちゃん、しいたけちゃん！

ひとみ こらっ、お行儀悪い！

ふたえ ひとみ姉さん、この状態で待ては限界ですぜ。

みつよ ハアハア、肉…肉…。

さつちゃん どうぞ召し上がって。

ふたえ いいんですかあ！？

さつちゃん ええ。

ふたえ・みつよ いただきます！

ふたえ・みつよ、鍋にがつつく。

さつちゃん 良かった、喜んでもらえて。

ひとみ びっくりした。まさか会いに来てくれるなんて。

さつちゃん ふと、どうしてるかなって気になっちゃって。

ひとみ よくここが分かったわね。

さつちゃん そう、連絡先も住んでる場所も分からなくなってたから探すの大

変だった。

ひとみ ごめんなさい。

さつちゃん いいのいいの。…でも凄いとこに住んでるのね。

ひとみ そう？

さつちゃん 今何してるの？

ひとみ 何が？

さつちゃん 仕事とか。

ひとみ ああ、今は何も。

さつちゃん 具合でも悪いの？

ひとみ そんなことないんだけど、なんか働くことに意味を見いだせないというかなんというか…。

さつちゃん ひとみちゃん頭良かったのに。

ひとみ 頭が良いのと社会が必要とするのとは別の話じゃない。そもそも私

頭良くないし全然。さつちゃんの方こそ、今何してるの？

さつちゃん 私？私は父の会社を継いで…。

ひとみ じゃあ社長？

さつちゃん まあ、うん。色々大変なだけだね。

ひとみ 何やってるんだっけ？

さつちゃん …家具屋。

ひとみ そうなんだ！。

さつちゃん えっ？

ひとみ え？

さつちゃん あれ、知らないの？

ひとみ 何が？

さつちゃん テレビとか新聞とか…まあいいわ、別に。

ひとみ こうやって会うのは何年ぶりかしら。

さつちゃん 転校する時が最後だから…十七年？



ひとみ そっかあ。

さつちゃん 最後の日のこと覚えてる？

ひとみ え？

さつちゃん 覚えてないでしょう。

ひとみ あれ…。

さつちゃん ふたえちゃんも。

ふたえ ええと…。

さつちゃん 大変だったんだから。

ひとみ え？

さつちゃん 二人とも車に乗れなくて。おばさん達はなんとか二人のご機嫌を取ろうとするんだけど、ひとみちゃんは泣きすぎるし、ふたえちゃんは大暴れして電信柱つかまったまんま離れないの。まるでおサルさんみたいに。

ひとみ そうだっけ？

さつちゃん 覚えてないの？

ひとみ 全然。

さつちゃん 今はもう大丈夫よね。

ひとみ え？

さつちゃん さすがに大人だもの、ねえ。

ふたえ うんめえ、うんめえ！おら、こんなうめえもん食うたことないわ。なあみつよ。

みつよ うん。あのう、このお鍋のお代は…。

さつちゃん いいのよ気にしないで。

みつよ え、いいんですか？

さつちゃん その笑顔で十分よ。

みつよ ありがとうございます！

ふたえ はひはほうほはいはふ！

さつちゃん 私、人の喜ぶ顔を見るのが大好きなの。

ひとみ 変わってないね。

さつちゃん そう？

ひとみ 昔から色んなものをプレゼントしてくれるところ。会えば必ず何かもらってた…。

さつちゃん おせっかいになつていないといいんだけど。

ひとみ そんな。

ふたえ うん。すげー助かった。

ひとみ みつよちゃんも良く可愛がってもらったのよ。

ふたえ ほら、大事にしたおさるのぬいぐるみ、あれ、名前なんだっけ。

ひとみ・みつよ おさるのオサル。

ふたえ そう！おさるのオサル！バナナ啜えてるやつな。あれもさつちゃんからもらったんだよ。

みつよ え？そうなの？

ふたえ うんうん。まるで妹みたいに可愛がってたもんな！。

さつちゃん 嬉しい。

ふたえ あれ、今もあるんだっけ？

みつよ え？

ふたえ おさるのオサル。

みつよ ああ…。(洗濯機を見る)

ひとみ そういえば、そちらの方は…。

コクボ は、はいっ！

ひとみ 秘書の方か何か？

さつちゃん 今日が初仕事なんですって。自己紹介出来る？

コクボ わたくし、コツ…コクツ…。

ひとみ ああ、コックさんね。お鍋ご馳走様です！。

コクボ ちがっ…あの…。

ひとみ　でもまさかお鍋をごちそうしてくれるなんてね。  
さつちゃん　喜んでくれた？

ひとみ　もちろん。

さつちゃん　でもこれ、まだまだ前菜のサラダよ。

ひとみ　え？

さつちゃん　前菜の、サ・ラ・ダ。

ふたえ　鍋だけど？

さつちゃん　メインディッシュは別にあるってことよ。

ひとみ　まだあるの？

さつちゃん　今日はそのために来たんだから。

コクボ　あのっ…。

さつちゃん　何があっても彼女たちは絶対に私が支えるから。ほら明るく、明るく！

コクボ　でも…。

ふたえ　さあコックさん、メインディッシュを！

みつよ　胃袋の準備は整っております！

コクボ　そ…外を御覧あれ！

壮大な音楽。

扉を開けると庭には、小型の飛行機、セスナ172スカイホーク。

みつよ　何これ…。

コクボ　こ…小型飛行機、セスナ172スカイホークです。

ふたえ　これがメインディッシュ…。

さつちゃん　私からのプレゼント。

コクボ　この飛行機で、お父さん、お母さんのもとに案内しますっ！

さつちゃん　よく言えました！

姉妹たち、石のように固まる。

さつちゃん　どうしたの？

気絶しているようだ。

さつちゃん　え、ちよつと、ちよつと！…ええええええ！？

暗転。

### 【3】

姉妹たちの部屋。

さつちゃんとコクボの介抱により、目を覚ます姉妹たち。

さつちゃん　大丈夫？

ふたえ　（身体をばきばきと鳴らしながら）こんな聞いてないって。

さつちゃん　もしかして、前より酷くなってる？

ふたえ　ぐげ、ぐげげげげげげ…（関節を動かす）

コクボ　（手伝う）

さつちゃん　困ったわねえ。

ひとみ　……………（無言で泣く）

さつちゃん　ひとみちゃん？

ひとみ　……………（無言で泣く）

さつちゃん　大丈夫？痛い？

ひとみ ……こんなはずじゃなかったのに。

ふたえ そうだよ。スペースシャトルじゃないじゃん！

さつちゃん え、スペースシャトル？

ふたえ 大気圏を越えて親子が再会するんだぜ。普通そうでしょう。

ふたえ、アルマゲドンの「ミス・ア・シング」を歌いながら

ふたえ（父のモノマネで） ひとみ、ふたえ、みつよ！

ひとみ（母のモノマネで） ひーちゃん、ふーちゃん、みーちゃん！

ひとみ・ふたえ（三姉妹のモノマネで） 父さん！母さん！会いたかった！

ふたえ（父） 随分長いこと待たせたな。

ひとみ（母） 火星で白菜を育てるのに思いの外時間が掛かってね。

ふたえ（父） でももう大丈夫だ。何も心配はいらないよ。父さん、母さんと

一緒に火星で暮らそう。

ひとみ（母） 火星で猪鍋をたらふく食べましょうね！（ポケットの中から）は

い、スペースシャトルどーん！

みつよ でも乗り物に乗れないじゃん…。

ふたえ（父） 大丈夫。このスペースシャトルにはテレポーターシオン機能が

あるんだ。さあ、目を瞑って。呪文を唱えて。

ふたえ・ひとみ （呪文）アルマゲドーン！

ふたえ ……こうして私たちは、地球を捨て、誰にも邪魔されず、家族仲良く火

星で暮らしましたとさ。めでたしめでたし。…つてなるはずだった

んだよ！な！

ひとみ ええ。

ふたえ なのになにこのクソボロ飛行機は。全然違うじゃん。

さつちゃん え？

ふたえ なに。

さつちゃん ……本気でそう思ってるの？

ふたえ 当たり前だよ。それに備えて、スペース系のゲームは全部制覇した

んだ。

コクボ あのう…。

さつちゃん （遮って）ふたえちゃんの言う通り。

コクボ えっ。

さつちゃん でも冷静に考えてみて。こんな小さい庭に、スペースシャ

トルが降りられる訳ないでしょう。まずはNASAに行かないと。

NASAに行くためには飛行機。飛行機に乗る訓練から始めましょ

う。

みつよ え…。

ひとみ そうね…。わかった、やるわ。なんとしてでも、私はNASAに行く。

さつちゃん 私、全力で応援する。

コクボ あのう…。

さつちゃん 状況が変わったの。

コクボ でも…。

さつちゃん 大丈夫。私はひとみちゃんの親友だもの。

乗り物嫌いを克服するために、

さつちゃんと姉妹たちの壮絶な特訓の日々が始まる。

しかし、あの手この手を尽くしても中々上手くいかない。

…という趣旨のダンスパフォーマンス。

数日後

その日も訓練を終え、姉妹たちが部屋に戻っていった後。

コクボがスカイホークの運転席で電話をしている。

コクボ …はい、申し訳ありません。もうすぐしたら必ず…もうすぐと言え  
ばもうすぐですよ…(電話の向こうから怒鳴り声)…あ、はい、三日  
です。三日で何とかします。(電話切れる)あのう…。

さつちゃん なに？

コクボ いつまで黙っているおつもりでしょうか。

さつちゃん まだよ。

コクボ …しかし、そろそろ時間がありません。

さつちゃん 分かっているわ。でもひとみちゃんの気持ちを考えたら本当の事

は中々言いがち…。

コクボ はあ、でも…私も上司から催促の電話が鳴りやまないんです…。

さつちゃん なによ、ここまで来れたのは誰のおかげだと思っ…。

コクボ (遮って電話に出て) あ、もしもし…すみません取り込み中で…す

みません…すみません…だーかーらー取り込み中…つってんだろが  
バカヤロー！殺すぞ！…あ、すみません、今何て言いましたっけ？

さつちゃん いえ…。

コクボ あ…。

#### 【4】

その日の訓練を終え、ふらふらと帰って来るふたえ。

ふたえ はーつらい。はーつらい…ゲームしよ…。

ふたえはゲームを始める。

少ししか経たないうちに、ゲームのエンディング音が鳴り始める。

ふたえ あれ、もう終わり？……続きはオンラインで……つてふざけんよもー

う。

ゲームの電源を切るも、続きが気になって落ち着かないふたえ。

ふたえ …いや、別にオンラインがやりたいって訳じゃないんだけどー。

間

気を紛らわせるものがないと、嫌なことばかり思い出してしまう。

ふたえ 三年二組の山田、私の消しゴム取った。五年三組の竹本、毛虫

ランドセルに入れた。中三の担任福田。もっとみんなの輪の中  
に入りなさいって言った。委員長の荒木、私の連絡ノートに「死

ね」って書いた。死ぬね、死ぬ…。

間

ふたえ 考えない。考えないぞ私は…うん。

再びゲームの電源を入れる。

オンラインゲームが始まる。

ふたえ あれ、繋がった。…みつよ。あいつそう言えば大学のレポート書いた

りしてるもんな。なんだこつそりネット契約かよ。ひとみ姉ちゃ  
んあんなにダメって言ってるのに。いーけないんだーいけないんだ

！。

間

ふたえ 三年二組の山田、私の消しゴム取った。五年三組の竹本、毛虫ランドセルに入れた。中三の担任福田。もっとみんなの輪の中に入りなさいって言った。委員長の荒木、私の連絡ノートに「死ぬ」って書いた。死ぬ死ぬ、死ぬ…。

間

ふたえ 別に嘘ついてねーよ。いるよ。いるっつってんだろ妄想じゃねーよ。未来の人類のために今必死で星の開拓してんだよ。お前らのためだろーがよ！だろーがよ！がよ…。

間

ふたえ ちよつとだけ…。ちよつとだけだからな…。主人公の名前は…「ふた」  
「た」「え」

音楽。

「ふたえ」を主人公にしたオンラインゲームが始まる。

主人公 私、ふたえ。謎の力で別の種族に生まれ変わってしまったんだ。人間の姿を取り戻すために、勇気のエンブレムを探す旅に出るよ！

魔法使いと武闘家が現れる。

魔法使い 私、魔法使いのスズキ。ねえあなた、私と一緒に旅しない？

主人公 ぜ、ぜひにっ！お願いします！

武闘家 おい、わしも連れていかんか！

魔法使い あなたは？

武闘家 わしは武闘家のタナカじゃ。こほつこほこほ…こほこほこほ…

主人公・魔女 だ、大丈夫！？

武闘家 大丈夫じゃ！わしには大人としての経験値がある。

主人公 じゃあさっそく旅に出よう。

魔法使い あ、その前にメアド教えて…LINEでもいいよ…うん、スカイプでも…。

主人公 実は持つてなくて…。

武闘家 え、持つとらんのけ！？それはちよつと…。

主人公 だ、大丈夫！なんとかする！なんとかするからっ！

ふたえはみつよのパソコンを探し出して

ふたえ ちよつと借りちやお…。ちよつと待つててね…よし！

主人公・魔法使い・武闘家 行くぞー！

ふたえ みてるよ、私の言ってることが嘘じゃないって世界中に思い知らせてるんだ。

ふたえはオンラインゲームの世界にどんだんのめり込んでいく。

【5】

同じ頃、ひとみはさっちゃんに連れられて外に出る。

近所の地図がまるで思い出せないくらい久しぶりの、  
アパートの外の世界。

ひとみ どこ行くの？

さつちゃん いいところ！

ひとみ 車や電車には絶対に乗らないからね！人に迷惑掛けちゃうし…。

さつちゃん いいの！今日は休日！

ひとみは自転車や自動車とすれ違う度、

隠れたり、固まりそうになったりと覚束ない足取りだが、

さつちゃんは昔と変わらず軽快な足取りで街の中を進んで行く。

ひとみ ちょっと、さつちゃん速い。

さつちゃん ひとみちゃんこそ部屋に籠りつきりで身体鈍ってるんじゃない

の？…あ、着いた！

ひとみ あ、ここ…。

さつちゃん そう、月の森公園。

ひとみ こんなに遊具あったっけ？

さつちゃん 最近になってね。昔は一面原っぱだったのに。

ひとみ マンションもいっぱい…。

さつちゃん でもほら、このレンゲ畑。ここだけは今でもそのままなのよ。

ひとみ さつちゃんよく花冠作ってくれたわね。

さつちゃん そうそう、お姫様の戴冠式ってね。

ひとみ 私、お姫様って柄じゃないのに。

さつちゃん そんなことないよ。私とひとみちゃんならひとみちゃんがお姫様

で、私が家来。

ひとみ さつちゃんはいつも家来になりたがったわね。

さつちゃん 私、人が喜ぶ顔を見るのが好きなの。尽くすことに情熱を感じる。

だから絶対に前世は家来だと思う。

ひとみ (独り言) …とは言うが、夕飯の時刻になって、お迎えが来て、お姫

様のように去っていくのは、いつもさつちゃんの方なのだ…。

さつちゃん え？

ひとみ あ、いや、私の前世はお姫様じゃないけどね。

さつちゃん これからなるじゃん。火星のお姫様に。

ひとみ あ、確かに…。

さつちゃん ここは空港が近くて、飛行機がとても大きく見えるのよ。

ひとみ …へえーそうなんだ。

さつちゃん …あの日、ここから一緒にお見送りましたね。ひとみちゃんのお父

さんとお母さん。

ひとみ (おどけて) …えー？覚えてないや。

さつちゃん 覚えてない訳ないでしょう、だってあの日…。

ひとみ 思い出した！

さつちゃん え？

ひとみ ここでお見送りました！笑顔で！私全然寂しくなかったんだけど、お

父さんの方が心配して、NASAに着いてからも、毎日毎日、こっち

夜中なのに電話掛けてきてたの。

さつちゃん え？

ひとみ そうだったそうだった今はっきりと思い出した。

さつちゃん ひとみちゃん、お父さんとお母さんは…

ひとみ 行ったよ。それでNASAからスペースシャトルで火星に飛んだ。

さつちゃん …そう、だったわね。

ひとみ 早く会いたいなー。

さつちゃん …うん。

ひとみ …訓練しなきゃ。

さっちゃん うん。  
ひとみ 頑張るから、私のこと、見捨てないでね。  
さっちゃん …うん。

【6】

夜。

庭にバイクのヘッドライトが射しこむ。  
アルバイトから帰って来たみつよ。

みつよ この辺で大丈夫。…うん、いいのこゝで。姉さんらに見つかると面倒くさいから。

みつよ ヘルメットを脱ぎ、相手に投げ渡す。  
男の姿は影になっておりよく見えない。

みつよ じゃあね、また、明日…。

男はみつよを抱き寄せ、キスをする。

みつよ 今帰ったらもう二度と会えなくなるかもしれない…。ねえ…私を連れて逃げて…。

メロドラマのような音楽。

舞台袖からヘルメットが跳んで来る。

みつよはそれを被り、バイクにまたがる男の背中をぎゅっと抱きし

める。

バイクが去る音と共にみつよは夜の闇に消えて行く。

スカイホークの操縦席から一部始終を撮影していたコクボ。

コクボ 乗ってた…今乗ってたよ！

【7】

翌日。

この日も訓練は遅くまで行われているようだ。

ひとみ・ふたえ (松岡修造応援歌の替え歌で) できる！できる！私はできる！

私は本気だ！君は本気か？

できる！できる！私はできる！

大丈夫！私は！(ふたえ、ふらっと倒れる)

ひとみ (間奏) なに、元気がないの？元気が欲しいの？だったら、「できる」

って言うてごらん。「できる」は人の心を強くするの。信じることに

全て。信じる世界は私に優しい。そう、「できる」は私たちを元気に、

笑顔にしてくれる。だから私は言い続けるよ！私は出来る！

だーかーらー！

ひとみ・ふたえ (立ち上がって) できる！できる！私はできる！

打ち上げてみせるよ！スカイホークを！

できる！私はできる！

今日から私は、飛行機だ！

ひとみ・ふたえ ドンウォーリー ドンウォーリー ビーハッピー！

決めポーズの後、勢いでスカイホークに乗り込もうとするが、近付くと身体が石のように固まる。

ひとみ それさえ守ればいくらでもやってもいいから。

ゲームの音だけが鳴り響く。

ふたえ (身体をほぐしながら) これ、何の意味があるの…？

ひとみ 明日退学届出して来るから。

ひとみ メンタルトレーニングよ。

みつよ は？

ふたえ メンタルトレーニング？

ひとみ あとバイト先にも迷惑が掛からないようにちゃんと挨拶してくるのよ。

ひとみ 強い精神無くして苦手は克服出来ない。ということでは私がお願いして取り入れてもらったの。

ふたえ マジか…。

みつよ え、何急に。

ひとみ さあ、もう一度やるわよ。

ひとみ 急も何も、最初から分かりきってたことでしょう。この日のためにやってきましただから。

ふたえ まだやるの？

みつよ 飛行機乗れてないじゃん。乗るの。もう、何としても乗るのよ！

さつちゃん 大丈夫？

ひとみ …何そんなイラついてんの？

ふたえ なんか最近ストイックになりすぎじゃない？

ひとみ あなた達が訓練サボってゲームやったり朝帰りしたりするからでしょう。

みつよが帰って来る。

ふたえ さつきやっついていいって言ったじゃん。うるさい！

ふたえ あ、不良少女。

ひとみ 何だよ。

ひとみ みつよちゃん昨夜どこ行ってたの。

みつよ と、友達のところ…。

みつよ …このまま三人じゃだめ？

ひとみ 友達…。

ひとみ …え？

みつよ 勉強で分からない所を教えてもらって…。

みつよ どうしても父さん、母さんと一緒に暮らさなきゃだめ？

ひとみ 無意味なことして。

みつよ …当たり前じゃない。

みつよ 無意味？

みつよ 私、よく分からない。

ふたえ はーっらい。はーっらい…ゲームしよ…。

みつよ みつよちゃんは覚えてないからよ。

ひとみ オンラインはだめよ。

ひとみ 親がない友達なんて周りにいっぱいいるよ。

ふたえ わ、分かってるよ。

ひとみ 可哀そうね。



みつよ そうかな。苦勞してる子は多いけど、友達や先生、職場の人に助

けてもらいながら、なんだかんだで幸せにやってるよ。

ひとみ 何が言いたいのか。

みつよ いや：無理しなくても私は幸せだよって…。

ひとみ それはあなたが妹だからよ。お姉ちゃんあなたのためにどれだけ苦

勞してきたと思ってるの。大学にも行かせてあげたのに、そういう

こと言うの。

みつよ ごめん…。

ひとみ あーあ。みつよちゃんを大学になんかやるんじゃないかった。家族の

ことを顧みない子になっちゃって。ねえふたえ。

テレビの画面からメッセージが届く音。

魔法使い ふたえ！この間プレゼントしてもらったアイテム、超使える！

武闘家 わしも、お前からももらったグローブでどんどん強くなっておるよ。

魔法使い でもさつき新しい武器屋見つけてさ、もっといいやつ売ってたんだ

よね。

武闘家 欲しいのー。欲しいのーごほごほごほごほごほ。

魔法使い 大丈夫？

武闘家 ああ、強くなりたい。新しい武器を買ってふたえと冒険したらもっ

と丈夫な身体になれるんだがのう…。

魔法使い 最強のパーティになれるだろうね。

みつよ 最強のパーティ？

ふたえ あつ。

ひとみ ふたえちゃん、今のなあに？

ふたえ あ…。

ひとみ オンラインゲームやってるの…？

ふたえ う、ううん。

魔法使い・武闘家 おーい、返事してー！

ふたえ え、あ、うんちよつと待って！

ひとみ オンラインゲームは絶対やらないっていう約束だったわよねえ。

ふたえ …だつて、買ったゲームすぐクリアしちゃったしい。

ひとみ 今すぐ捨てなさい。

ふたえ やだよ。

ひとみ じゃあ私が捨てる。

ふたえ やだよやめてよ。

ひとみはゲームのコンセントを抜く。

魔法使い うわ、ムシされた。マジウザいんだけどー。

武闘家 せっかく仲間に入れてやろうと思つたのにのう。

魔法使い あ、あそこに賢者がいるよ！

武闘家 あいつに声を掛けるとしよう。

ふたえ ああああ！ちよつと待って！

魔法使い あ、その前に…。

魔法使い・武闘家 お金。

魔法使いと武闘家は課金の請求書を残して消える。

ひとみは明細書を拾う。

ひとみ 外の世界と繋がっちゃだめってあれだけ言ったよね。

ふたえ 悪いのはみつよだよ。みつよがこっそりネットを契約してたんだ。

ひとみ みつよちゃん？

みつよ だ、だつてネットがないと課題が追い付かないんだもん。

ひとみ 学校で出来るでしょう。

みつよ すぐバイトだもん。誰かさんが働かないせいで。

ふたえ みつよだけずるいよ。私だってせっかく友達出来そうだったのに！

ひとみ 友達なんて無意味よ。

ふたえ そんなことないよ。すつごく優しくいい人なんだから。

ひとみ (請求書を見せて) ああそう、良い人はこういうことするの。

ふたえ それは…。

ひとみ 思い出して。父さん母さんがあっち行ってから、いっぱい馬鹿にさ

れてきたし、嫌なこと言われてきたでしょう。

ふたえ あの人達は私の背景なんて気にしないよ。

ひとみ 無条件に優しくしてくれる人なんて現れないのよ。だからふたえち

やんが傷つかないように、私が守って来てあげたんじやない。それなのにこんなインチキに騙されて。

ひとみはゲーム機を洗濯機の中に放り込む。

ふたえ

あつ！

ふたえも洗濯機の中に飛び込む。

ひとみは蓋を閉め、開かないようにチェーンで縛る。

ふたえ ちよつと！出してよ！ねえ！ねえってば！

ひとみ しばらくそこで反省しなさい。

みつよ ふたえ姉さん！(洗濯機を開けようとするが、開かない)

ひとみ 約束破るからこうなるのよ。

みつよ 姉さん酷い！

ひとみ 酷いのはあなたたちでしょう。私たちがいつでも出発出来るように、

未練が残らないように、少しずつ準備してきたんじゃない。なにになに？みつよちゃんもこうなりたいの？

え…。

ひとみ スイッチ押そうか？オサルみたいになるよ。

みつよ それは…。

ひとみ さっちゃんからもらったおさるのオサル、ボロボロにちぎれていな

くなつちやったわね。なんでだったかしらね。

…。

みつよ お姉ちゃんとの約束破ったからでしょう。

みつよ やだ…。

ふたえ ねえ出して！出してってば！

ひとみはみつよを捕まえて、洗濯機に入れようとする。

コクボが飛び出してきて、それを阻止する。

ふたえは脱出に成功する。

ひとみ 何するのよ！

コクボ タイムリミットです。すすすすぐに出発の準備をしてください。み

つよさん。

ひとみ・みつよ えっ？

コクボ こ、これからみつよさんを連れて出発します。(電話に向かって) 出

発します。

ひとみ どうしてみつよだけなの？

コクボ あなたは乗れない。

ひとみ みつよちゃんだってそうじゃない。

コクボはみつよが彼氏とバイクに乗っている写真を見せる。

ひとみ 何これ。キス!!。

みつよ あっ。

コクボ 彼女は最初からバイクも飛行機にも乗れるはずなんです。

ひとみ ずっと騙してたの？

みつよ 彼女を責めないでやってください。彼女だって、お姉さんたちと能力が違うことをずっと悩んできたんです。

ひとみ いつから？

コクボ 彼女の学校でリサーチしたところ、自転車、一輪車、乗馬、スキー、サーフィンをしている姿が目撃されています。恐らく、最初から苦

手ではなかったと思われる。

ひとみ 私がどんな思いでこの暮らしを守って来たと思ってるの？

みつよ それは…。

コクボ さあ、こちらへ。

みつよ 私行きたくない。

コクボ もう時間がないんです。

ひとみ 裏切り者！自分ばっかり友達作って彼氏作って、父さん母さんまで

独り占めするの。

みつよ 自分だって友達連れてるじゃん！

ひとみ 誰のこと言ってるのよ。

みつよ さっちゃんに決まってるでしょう。

ひとみ さっちゃん？

みつよ さっちゃんと、しっかり友達してるじゃん。

ひとみ 私、さっちゃんのこと、一度も友達だと思ってたことないよ。

みつよ …嘘だ。

ひとみ 私、未練ないもん。

みつよ さっちゃんがどれだけ尽くしてくれたと思ってるの。

ひとみ 私、さっちゃんの喜びの材料にされてるだけだもん。

みつよ え…？

さっちゃんがやって来る。

ひとみ

さっちゃんがぬいぐるみくれたおかげでみつよちゃんは泣かなくなつたね。さっちゃんがゲームくれたおかげでふたえちゃんは暴れなくなつた。さっちゃんがお鍋プレゼントしてくれたおかげで私たちはお腹いっぱいになったね。さっちゃんが飛行機用意してくれたおかげで私たちはお父さん、お母さんに会いに行ける。飛行機に乗れない私たちに、特訓までしてくれる。全てはさっちゃんのおかげ、さっちゃんのおかげ、さっちゃんのおかげ…。

ひとみ

さっちゃんがお姫様じゃん。おこぼれ貰ってるのは私。みじめなのも私。

さっちゃん ひどい！

ひとみ さっちゃん…。

さっちゃん そんな風に思ってたの？

ひとみ うん…。

さっちゃん ひとみちゃんのこと、分かっているのは私だけだと思ってたのに。

さっちゃん、泣く。

泣き声はだんだんと大きくなっていく。

さっちゃんが泣く声を聞いて、さっちゃんのお父さん

とお母さんがやってくる。

さっちゃんのお父さん さち子。

さっちゃんのお母さん さっちゃん。

さっちゃん パパ、ママ！

さっちゃんのお母さん どうしたの、そんなに泣いて。何か嫌なことでもあった？

さっちゃんのお父さん さち子を泣かせるやつはお父さんが許さないぞ。

さっちゃん …ううん、なんでもない。

ひとみ …。

さっちゃんのお父さん そうか。さち子は頑張ったな。

さっちゃんのお母さん 帰ったらヨシヨシしてあげるわね。

さっちゃん うん。

さっちゃんのお母さん さあ、夕飯の時間だから帰りましょう。今夜はハンバ

ーグよ。

さっちゃん ハンバーク？やったあ！

三人は手を繋いで帰っていく。

ひとみ ほら、やっぱりお姫様は、さっちゃんじゃん。

長い間。

ひとみ う、うううー…うううー… (泣く)

みつよ 姉さん…。

ひとみ うううーうううー。

ふたえ ひとみ姉ちゃん。

ひとみ うううー。うううー。

ひとみ、自ら洗濯機中に飛び込み、蓋を閉める。

ふたえ 姉ちゃん！

みつよ ひとみ姉さん開けて！

洗濯機が回転を始める。

ふたえ どうした？

みつよ ちよつと、お姉ちゃん！

みつよとふたえは蹴ったり叩いたりして止めようとする。しかし、回転の勢いはどんどん増していく。

ふたえ 浮いてる！

みつよ うそー！

ふたえ 押さえて！

みつよ うん…でもムリ！

ふたえ ふんばれー！

みつよ ふぬー！ふぬー！

ふたえ ふぬー！ふぬー！

みつよ もうムリ！飛ばされちゃう！

ふたえ 姉ちゃん！

みつよ 姉さん！

ふたえとみつよは洗濯機にしがみつく。

三人

洗濯槽はまるで台風のように勢いをつけて回転し、やがて本体を持ち上げ、ロケットの如くアパートを飛び出し、雲を越え、大気圏を突

き抜け、宇宙に飛び出した！

音楽

三姉妹の目の前には、宇宙が広がっている。

三人 うーわー！

ふたえ ここどこー！ここどこー！？

みつよ 宇宙だー！

ふたえ 姉ちゃん、宇宙だよ。

ひとみ (洗濯槽から顔を出して) 何ですって？

姉妹たち、周囲を見渡す。

みつよ (後ろを向いて) あ、地球！

ふたえ ほんとだ！やっぱり地球は青かった。

みつよ 図鑑で見たのよりは赤くない？

ふたえ え、そうかな？

みつよは地球の後ろに太陽を見付ける。

みつよ 太陽もある…ということは、私たち今、火星に向かっているんだわ！

ふたえ あ！あれがそうかな！？

ひとみ お父さーん！お母さーん！

ふたえ・みつよ お父さーん！お母さーん！

お父さん・お母さん おーい！

ひとみ あっ！

お父さん・お母さん ひとみー！ふたえー！みつよー！

三人 おーい！

火星から姉妹たちの両親が手を振っている。

しかし、両親の顔は、客席からは見えない。

三人、必死で手を伸ばす。

五千四百万キロメートルの距離はどんどん縮まっていく。

景色は突然、父と母の旅立ちの日に切り替わる。

お父さん ひとみ、ふたえ、ちゃんとおばあちゃんの言う事を聞いて、良い子に

してるんだぞ。

お母さん みつよちゃんのめんどろも見てやってね。

ひとみ お父さんとお母さんはどこへ行くの？

お父さん 宇宙だ。

ひとみ 宇宙？

お母さん お父さんとお母さんはね、火星を人類の新しい住処にするために開

拓するのよ。

お父さん 地球はこれからますます住みにくい環境になるからね。

ふたえ じゃあ、お父さんとお母さんは火星になるの？

お母さん そうね、地球で最初の火星になるかもしれないわ。

ひとみ 私たちはどうなるの？

お父さん 火星で暮らす環境が整ったら、必ずお前達を迎えに行くよ。

ひとみ わかった。

お父さん 元気だな。

お母さん 三人仲良くね。

三人 こうして父と母は、私たちを残しNASAに向かって旅立った。

私たちはさっちゃんと共に、月の森公園のレンジ畑からそれを見送った。

ひとみ 飛行機は、そのまま消えて、いなくなつた…。

景色は再び火星に戻る。

五千四百万キロメートルの距離を越えて、  
家族はどうとう再会する。

お母さん どうしたの、そんなに泣いて。何か嫌なことでもあつた？

お父さん お前達を泣かせるやつはお父さんが許さないぞ。

ひとみ 私たち、ずっとずっと、寂しかった。

お父さん そうか。みんな頑張つたな。

ひとみ ヨシヨシしてくれる？

お父さん ああ、ヨシヨシする。

ふたえ お腹空いちやつた！夕飯は何？

ひとみ 私、猪鍋がいいな。

お母さん もちろん、アツアツを用意してあるわよ。

家族五人、火星の中心で「いただきます」を言う。

ふたえ うんめえ、うんめえ、こんなにうめえもん食うたことねえべ！  
みつよ よし、ぽかぽかお布団で一緒に眠ろう！

火星の中心で家族五人、川の字になって横になる。

ひとみ これからはずっと一緒ね。

姉妹たち、深い眠りにつく。

三人が眠りに着くと、父と母は布団の中から起きてきて

お母さん ごめんね。そういう訳にはいかないの。

お父さん 火星はまだまだ住める状態にはなっていないんだ。

お母さん 気温や水、食べ物のこととか、色々問題が山積みでね。

お父さん 君たちが死ぬまで解決するかも分からない状態だ。

お母さん でもね、お父さんもお母さんも、あなた達のこと、愛してる。

お父さん・お母さん 愛してる、愛してる、愛してる。

お父さん いつも側で見守っているから。

お母さん だからあなた達はこれまで通り、三人仲良く暮らさない。

お父さん ちゃんと勉強して、働いて。

お母さん 友達を作つて、ご飯を食べて。

お父さん 自然を愛して、人を愛して。

お母さん 生かされていることに、感謝して。

お父さん・お母さん お父さん、お母さんの分までしっかり生きてね。

長い間

姉妹たちの寝息が心地よく響くくらいの、静寂。

コクボ 良く眠ってますね。

さつちゃん 言つたでしょう、分かつてあげられるのは私だけだつて。

姉妹たちはかつてない幸福を感じながら眠っている。

両親たちは正面を向き、服を着替え始める。

実は父の正体はコクボ、母はさつちゃんである。

ここはとある街はずれにある木造アパートの一室。

姉妹たちが見た宇宙は、洗濯機の回転の中で見えた幻である。  
暗転。

【8】

床の振動で目が覚めるひとみ。

ひとみ …あれ？

隣で同じようにふたえとみつよが寝転がっている。

ひとみ ふたえちゃん。

ふたえ んんーむにやむにや…。

ひとみ みつよちゃんも、起きて。

みつよ うーん。(起きる)

コクボ お目覚めですか。

ひとみ ここはどこ？

コクボ セスナ172 スカイホークです。

ひとみ・ふたえ・みつよ 飛行機!?

コクボ さっきの回転に慣れてしまえば、こんなものお茶の子さいさいですよ。

ふたえ どういう意味？

みつよ 簡単なこと。

コクボ そうそう、洗濯機の横にあった洗剤、中身補充しておきましたから。

ひとみ え？

コクボ 彼女の指示です。

ひとみ さっちゃん？

コクボ 帰ったら正しい洗濯の仕方を教えるって張り切っていました。

ひとみ あんなに酷い事言ったのに…。

コクボ 見て下さい、青空が広がっているでしょう。

みつよ 本当だ！あれ、足元が真っ白。

ふたえ もしかして私たち、死んだ？

コクボ 雲ですよ。私たちは今、雲の上を飛んでいるのです。

ひとみ 信じられない…。

ふたえ まるで別世界だ…。

みつよ どこに向かっているんですか。

コクボ 皆さまのご両親のもとです。

みつよ え、NASA？

ふたえ いやいよスペースシャトル？

ひとみ でもお母さんたちはさっき…。

コクボ …これから向かうのは、峡谷です。

ひとみ え？

コクボ 消息を絶ったまま行方不明になっていた航空機が先日、発見されました。

ひとみ・ふたえ・みつよ え…。

コクボ 十七年前、あなた方のお父様と、お母様が乗った飛行機です。

ひとみ・ふたえ・みつよ …。

コクボ 薄々気付いていたでしょう。

ふたえ 全然。

ひとみ はい。

ふたえ ええつ。

コクボ これから、身元確認に来て頂きます。

ひとみ …はい…。

コクボ …大丈夫ですか。

ひとみ はい。

コクボ 分かりました。外に出ると機体の残骸やご遺体、墜落時そのままの状態が残っていますので、くれぐれもご注意ください。…それでは、これから着陸準備を行います。

小型の機体は雲を突き抜け、やがて見えるは過去に誰も足を踏み入れたことのない、谷底。

ふたえ 姉ちゃん…。

ひとみ 大丈夫、私たちの中に愛はたくさんあるわ。

ふたえ …うん。

ひとみ ありがとう、コックさん。

コクボ 実は私、コクボなんですけどね。

ひとみ ありがとう、さっちゃん。

ふたえ え？

ひとみ さあ、降りるわよ…。

三人、飛行機から一歩足を踏み出す。

上空の火星が、きらりと光ったような気がする。

#### 【上演記録】

二〇一六年八月 兵庫県立神戸高校演劇部  
神戸電子専門学校ソニックホールにて上演

#### 【本作品の転載・上演について】

本作品を無断で転載・上演することをお断りしております。  
左記連絡先までお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ】

ブラズママかん 中嶋 悠紀子  
plasmamikan@yahoo.co.jp

#### 【終幕】